



第 136 号

令和 4 年

3 月 23 日発行

蒼 雲

【発行】

鳥根県立三刀屋高等学校

〒690-2404

雲南市三刀屋町三刀屋 912-2

TEL: 0854-45-2721

FAX: 0854-45-5630



雪が溶けると…

校長 山崎 誠

ホームページ等に掲載している不定期発行の校長室だより第34号では、卒業式の式辞を紹介しました。校長室だよりには掲載しなかった、卒業式の式辞の前段で次のようなこととお話しました。

「本日ここに保護者の皆様をお迎えして、卒業証書授与式ができますことは、教職員一同大きな喜びであります。同時に、これまで保護者や地域の方々をはじめ多くの方々にご支援ご協力いただいたおかげでこの日が迎えられることを、すべての方をお招きできないことに思いをはせながら、より身にしみて感じ感謝しているととです。」

三刀屋高校は、もうすぐ2024年に開校100周年を迎えます。地域の人々の願いや思いによって設立・開校され、学校としての歴史を刻んできたことが、設立運動から今までの歴史を振り返ると鮮明にわかってきます。それは日々の教育活動の中でも感じてはいますが、雲南の地で温かく見守り支えられ成長した卒業生の姿を、どうやったらより多くの方に見ていただけるかを考える中で、本日に多くの方に支えられてきたことを、卒業式の準備・挙行をする中でより深く感じたところです。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、保護者の参列も1名に限定するなど縮小した形での卒業式にせざるをえない中で、今

年度は在校生、保護者向けに、卒業式や最後の終礼(LHR)の様子をライブ配信しました。しかし、保護者や在校生、お招きできなかった来賓の方々をはじめ多くの方々に見送られながら、保護者や地域の方々に成長した姿を見てもらうことができなかつたことは、卒業生も無念の気持ちでいっぱいだったと思います。

これまでの高校生と違って、今年の卒業生は高校3年間の大半を新型コロナウイルス感染症の影響下の中で過ごしました。臨時休校や学校行事・部活動の大会などの中止や縮小に遭い、楽しみにしていた台湾への研修旅行もその代替の研修旅行もできませんでした。通常の部活動ですら時間制限等が設けられたりする中で、すべてを出し切った、高校生活を満喫したという気持ちでの卒業式とはならなかつたと思います。だからこそ、出し切れなかつた思いを意欲に変え、これからの人生で出し切る思いで歩んで行って欲しいと願っています。

それもあって、式辞では「向かい風をつかめ」を贈る言葉としました。ヨットは風上に向かってまっすぐは無理ですがジグザクなら進めます。向かい風も推進力に変えています。回り道にはなりますが、着実に前に進んで行きます。山道や登山道もつづら折りになっています。実は、初任で隠岐水産高校に赴任した時にヨット部の顧問と

なりました。ヨットの醍醐味のひとつがタツキングという動作です。風上に向かってジグザクに航行する時に艇の向きを変える動作で、かなり難しい動作です。生徒と一緒に小型のヨットに乗ったこともありましたが、私は何度もヨットを横転させ海に落ちたことを覚えています。どのタイミングで向かい風をつかむタツキングをするか、向かい風の動きを読みながらの駆け引きになります。向かい風を利用するのは簡単ではないですが、ヨットレースでは勝負の分かれ道になります。

式辞では「ウインド・カー」についても話をしました。小学校理科の「風やゴムの動き」の時間などで作った方もいるかもしれません。正面からの風、つまり向かい風を受けてまっすぐ風上に向かって走る車です(「校長室だより」第34号参照)。飛行機も向かい風によって飛び立ちます。苦難も発想や考え方を変えれば、大きな力になることを、こうしたことを例に気づいて欲しいことを伝えたくて贈る言葉としました。

これからも困難な道が待っていると思います。雲南の地を離れていく者も多いですが、三刀屋高校という母校は、雲南というふるさととは、いつでも温かく見守り帰りを待っています。「おかえりなさい」という言葉をかけられる日に、さらに成長した姿、充実した笑顔を見られることを、保護者や地域の方々とともに楽しみに待っています。

もうすぐ桜が咲きます。雪が溶けると春になります。苦難の道の中には必ず春が待っていると信じています。卒業生に幸多かれんことを祈るばかりです。

学びある一年

後期生徒会長 2年4組 伊藤 滉基

僕にとってこの1年間は僕自身に大きく成長を促してくれた時間であると感じています。部活動では先輩と共に「甲子園で校歌を歌う」ことを目指し、学年関係なく高めあってきました。そして果たしきれなかったその目標を最上級生として達成すべく新チームで始動したのは今年度の夏でした。日々上手くいかないことばかりで何度も2年生同士で衝突し合い、その度に団結力を付けてきました。秋の大会では初戦を難なく突破し、そして迎えた二回戦では立正大・南高と対戦し、不甲斐ない負け方をしてしまいました。この負けから自分たちの実力不足、意識の低さを改めて感じ、今は「県内一番のフィジカル」のもと夏に向けて全員で切磋琢磨しています。また、今この厳しいコロナ禍の中でも自分達が野球をすることが出来ているのは指導者の方々、地域、保護者の皆様のおかげであると強く感じており、感謝の気持ちを夏の大会の結果で示したいと思います。また他の部活動でも指導者の方々、地域、保護者の皆様に支えて頂いていることを大いに感じています。本当にありがとうございます。

学校生活では2年生となり先輩に頼るだけではなく、後輩を引っ張るという役割が新たにでき、とても大変だと感じると共に、この学校を引っ張ってこられた先輩方の偉大さを感じました。また学年が上がったことにより、勉強の難易度も1段階上がり、日々の授業はもちろん、定期テストや模試などと思うように結果がでないことがあり苦しむこともありました。でも、親身に向き合ってくださる先生方、支えてくれる先輩、優しく教えてくださる先輩方、そして何より、共に高め合う同年生の皆さんのおかげで楽しく充実した1年間を送ることが出来ました。また二学期途中から生徒会長となり、学校全体を引っ張っていき、右往左往してばかりでしたが、生徒会執行部のメンバーで協力して1つ1つの仕事をこなすことができました。

コロナの影響により、休校となることもありましたが、この先も地域の方々の繋がりを大切にし活動していこうと思います。1年間ありがとうございました。

つまね留学のころ

2年4組 中村 紗香

コロナウイルスの流行で何もかもが制限された高校1年生。終息の目処も立たずこのまま高校生活終わりにたくない、新しい環境で新たな自分と出会いたい、そんな想いで地域みらい留学365で三刀屋高校に留学しました。また、コロナウイルスで失業者が増加した社会は人の代わりにAIが仕事を代行するようになりました。便利性、技術開発に圧倒されつつもそんな社会に私は違和感を抱きました。そこで私は「人にしかできないことは何だろうか。」という疑問を持ち始め、追求していくことを決意しました。この留学はそのための大きな力を貸してくれるだろうと思ったのも留学を決意した理由です。

今まで、「したい」という声をあげてもなかなか「実行する」のは難しく、埋もれてしまうのが当たり前だと考えてきました。しかし、雲南市は私が惹かれた「日本一チャレンジに優しいまち」という言葉通り、「したい」を「カタチ」にできました。子供から大人まで雲南市で暮らす人全員にチャレンジ精神が満ち溢れていました。そんな姿勢に私は刺激を受けました。

部活動では、女子バレーボール部に入り、最高のチームに出会うことができました。高みを目指し、どんな時もチームと共に乗り越える、チームワークの強さを感じました。スキルアップと共に増すバレーの楽しさ、勝利したときの嬉しさはもちろん、負けた時の悔しさ、本気でやるからこそその楽しさを学びました。

不慣れた生活の中、正直辛い時もありましたが、その苦しさ以上の三刀屋高校でしか経験できないことを味わうことができました。その経験値を積む度に留学を決意して良かったと感じました。留学生活を送る中で関わった全ての人からたくさんの学びを得ることができました。

地域みらい留学365で三刀屋高校と出会い、この1年間を共に過ごせて本当に良かったです。三刀屋高校が私の第二の母校となりました。ありがとうございました。

未来Ⅰ

2月9日（水）3・4限に、1年の未来Ⅰの授業で「学びの発表会」を実施しました。

その準備として、「発表原稿シート」を作成しました。そのシートには次の①～⑧の項目がありました。



1. 自己理解探究の学び

- ①自分から見える自分
- ②他者から見える自分
- ③自己理解探究を通しての気づき

2. 地域理解探究の学び

- ④話を聞いたゲストの紹介
- ⑤ゲストが話していた「エピソード」と「想い」
- ⑥地域理解探究全体の学び・感想

3. 1年間の学びまとめ

- ⑦1年間の学びの中で印象的だった場面
- ⑧これから大切にしたい学び

このシートをもとに、この1年間で学んだことや考えたことをどのように伝えたら効果的かを考えて、スケッチブックを使ってプレゼン資料を作り、小グループで発表しました。緊張しながらも、他のクラスの生徒達に学んだことや自分の成長について堂々と語る様子が見られました。

しかし、その5分間のプレゼン以上に大変だったのは質疑応答の5分間でした。地域理解探究のゲストの方からも「まじめに聞いてくれているけれども、もっと質問したり、意見を言ったりして欲しかった」という感想をいただいたと聞いています。学生の間は「まじめ」であることで大目に見てもらえるところがありますが、社会に出た時には他者と積極的に関わることやその姿勢が求められます。ゲストの方の言葉は三高生への期待の大ききの証だと思います。

1年次の「未来Ⅰ」が終わり、2年次の「未来Ⅱ」が始まります。それぞれの「未来」を切り拓く力を、探究学習を通じて身に付けていきましょう。



未来Ⅱ



前期は学校をよりよくするための提言文を作る探究活動をしました。発表会の様子です。



後期は地域の方と協働で探究をしました。地域の方に話を聞きに行ったときの様子です。

”気づき・考え・実行する“ JRC(青少年赤十字)部
 スライドで活動内容(抜粋)を見てみよう! & 活動仲間(高校生も地域の方も)大募集!

6

実行する 全員が昼食を食べられるように!

企画書
 ①経緯・動機
 ②目的
 ③内容(5W1H)
 ④懸案事項

④会議の流れ・段取り
 ⑤販売依頼先(案)
 ⑥保健所への届け出
 ⑦感染症対策
 ⑧突発的事態の連絡調整

1

気づき 考え 実行する

① 弁当を忘れたら
 何も食べられないまま
 午後の授業
 が当たり前?

7

実行する 約1年半かけて やっと実現!

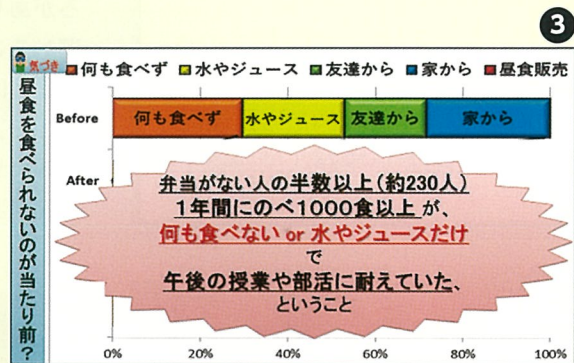
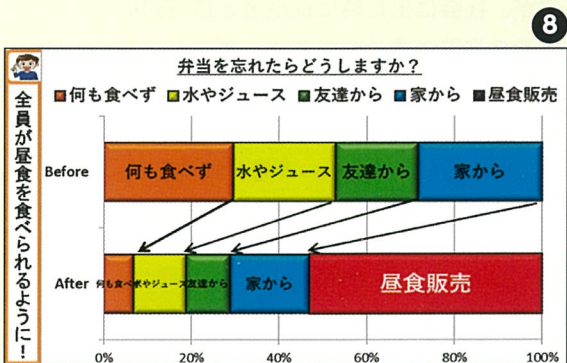
全員が昼食を食べられるように!

驚いた!
 高校生でも
 実現できたんだ!
 by 生徒・教員・保護
 者・卒業生・地域の
 方々

2

気づき

▲学校には購買がない! 周りにお店もない!
 弁当を忘れたら食べるものがない!
 ▲午後の授業に集中できない...
 ▲部活動の体力がもたない...
 ▲体調不良で保健室や早退する人もいる...
 ▲PTAとか先生方とか 静観してるだけ?
 ▲不満の声が蔓延している校内



9

実行する 全校生徒からのメッセージボード(模造紙10枚)

無理なく末永く続くように!

今までは、弁当を忘れたら、マジでひもじかったけど、
 今年からマジで助かりました!
 飢餓状態の僕たちを救ってくれて本当にありがとう!

4

考え

▲弁当を忘れたらマジで食べるものがない! ...深刻な
 ▲健康・授業・部活に悪影響 ▲不満を言うだけ 現状

●生徒全員がもれなく
 昼食を食べられるようにしたい! ...願い

▲パンの自販機の復活(衛生上ムリ)
 ▲購買の設置(人件費・売れ残りムリ)
 ●パン等の移動販売 ...ニーズあり! 実行する

10

実行する 全校生徒が 気づき 考え 実行する ように変わった!

無理なく末永く続くように!

お店の人と本音トーク
 ここはスーパーではなく、
 三刀厘高校生のために
 来ているのだから、
 人としてのつきあい
 「こんにちは!」
 「ありがとう!」
 を笑顔で大きな声で

1日約50個売れたら
 赤字は回避できそう
 これがおしかった!
 こんなのがほしい!
 こんな企画どう?
 とお互いに出し合っ
 WinWinな関係に

ボランティア生徒が
 133名も集まった!
 (1,2年生約250名中)

探究の授業でも 史上初!
 「昼食販売」「食堂」がテーマに

5

実行が...

▲生徒・教員・保護者みんな無関心
 「高校生に実現できるわけがない」
 ▲1軒ずつ頼んでいくための時間と労力
 ▲厳しい口調で却下されるたびに心が凹む
 ▲保健所や 商工会議所は、高校生に
 アドバイスはするけど手続きは教えてくれない
 ▲初めての「企画書」・「会議(生徒総会・職員会・PTA総会など)」

●保護者大島さんも同じことをしておられた!
 意気投合! ...両者コラボで 実行する

各スライド
 の左端
 気づき
 考え
 実行する
 の色分けに
 注目してね

『Original Style in 雲南〜広げる健康・繋げる命〜』
 島根県代表として「全国総文祭」と「全国マイプロジェクトアワード」で発信してきます！

16

若者の献血協力者を増やすには？

考え

- ▲血液が足りない！
- ▲血液が足りないことに、無関心だった！
- ▲若者の献血者が激減していることに、無関心だった！
- ▲足りない血液を輸入していることを、知らなかった！…現状

気づき

- 無関心では済まされないことを、知ってもらいたい！
- 若者の献血者を増やさねば！…願い

考え

- 関心をもつきっかけが必要！

楽しく知る・深まるクイズ大会・映像・啓発
 献血車を呼ぶ！対象年齢以外は見学ツアー…ニーズあり！

実行する

11

気づき 考え 実行する

② 永井隆博士の地元で
 偉業を知らない人・話せない人
 多すぎない？

若者の献血協力者を増やすには？

考え

- ▲記念館・生い立ちの家に行っていない人がほとんど。
- ▲部員自身も知識がない・話せない…現状

気づき

- 記念館や生い立ちの家にいけば
 ひととおり知れる！感じるものが大きく深い！とわかった。
- 永井隆博士を知ることで
 平和と健康を考えてほしい！…願い

考え

- 行ってみようとするきっかけが必要！

楽しいワークシート・スタンプラリー・演劇…ニーズあり！

思いついたことから やってみよう！

実行する

17

若者の献血協力者を増やすには？

実行する

文化祭でクイズ大会
 文化祭でドキュメンタリー映像(小児ガンの男児)

自分のこととして考えさせる啓発
 リアルタイム掲示板・チラシ

12

若者の献血協力者を増やすには？

考え

- ▲永井隆博士を知って
 平和と健康を考えてほしい！

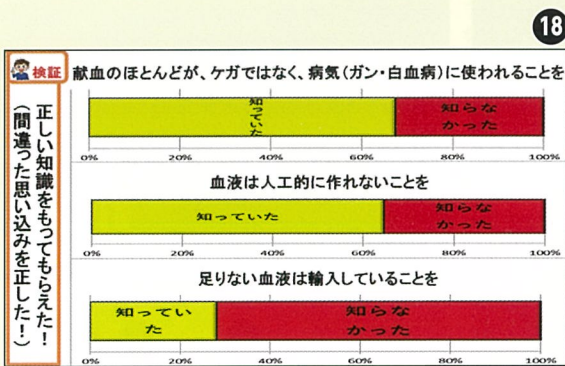
気づき

- 行ってみようとするきっかけが必要！

楽しいワークシート・スタンプラリー・演劇…ニーズあり！

思いついたことから やってみよう！

実行する



13

若者の献血協力者を増やすには？

実行する

永井隆博士を知ろう！
 ワークシートスタンプラリーB面

19

検証

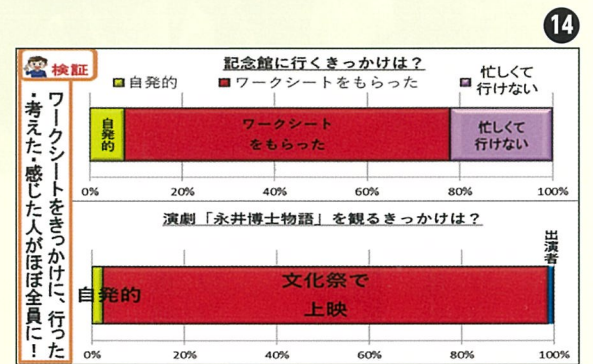
島根県では1日あたり約50人献血が目標です

●県内の高校で(近年)史上最多56名！
 ●対象年齢以外の献血車見学ツアーも好評！

若者の献血協力者を増やすには？

たくさんの方が献血してくれました！

ご協力ありがとうございます！
 正しい知識 現状を知る きっかけ 献血



20

●「合言葉 気づき 考え 実行する で 私たちも周囲も共に変わっていく！」と自信を持ってました！
 ●今後も Original Style in 雲南 ~ 健康と命の輪を広げていきます！

三刀屋高校 JRC部

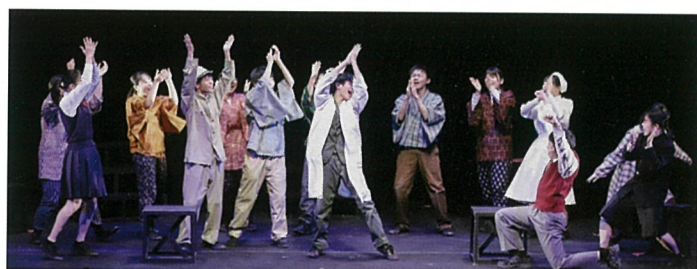


中国大会「最優秀賞」全国総文祭出場へ

私たち演劇部は、この度、最優秀賞を受賞しました。「全国大会出場」が目標だったので、すごく嬉しいです。

地区大会、県大会はコロナのこともあり、無観客での上演でした。でも中国大会では保護者の方や他のお客さんが見てくださったので、改めてお客さんがいる状態でお芝居ができることのありがたさを感じました。私たちは永井隆博士の生涯をテーマにした劇をしました。客席からすすり泣く声も聞こえてきて、私たちの気持ちがお客さんにも届いていることが実感できてとても嬉しかったです。

部活をする時は常にマスクをした状態でやっています。あまり大声を出せないの、できることが制限されますが、全国大会に向けて私たちにできることを精いっぱいやっていこうと思います。コロナが収まらない現状においては、思うように稽古ができないけれど、部員みんなで健康に気をつけて、「とうきょう総文 2022」では私たちらしい演劇を多くの人に届けられるように頑張ります。これからも応援よろしくをお願いします！



▼JRC部

- ・全国ボランティアスピリットアワード
全国ボランティアスピリット賞
- ・島根県高文連青少年赤十字研究発表
最優秀賞（全国総文祭出場決定）

▼演劇部

- ・第45回島根県高等学校演劇発表大会
最優秀賞
- ・第59回中国地区高等学校演劇発表会
最優秀賞（文部科学大臣賞）
（全国総文祭出場決定）

▼女子ソフトボール部

- ・島根県高等学校
ソフトボール新人大会 優勝

▼男子ソフトボール部

- ・島根県高等学校
ソフトボール選手権大会 優勝